

第7回日中韓大学院生フォーラム報告

平成26年9月26日から29日にかけて、中国北京、中国地質大学（China University of Geosciences）の中国地質大学国際交流センターで、第7回日中韓大学院生フォーラム（7th China-Japan-Korea Graduate Student Forum 2014）が開催された。日本からの参加大学は、筑波大学、九州大学、北海道大学、神戸大学、新潟大学、中国からは北京大学、清華大学、中国地質大学、中国農業大学、中国科学地理院、中国科学院研究生院、韓国からは忠南大学、高麗大学であり、日中韓三ヶ国から計13校の参加があり、約200名（うち教職員約40名）参加があった。筑波大学からは、大学院生16名、学類生3名、教職員7名が派遣された。

このフォーラムは、地球、生物、生物資源専門分野を超えた大学院生が、学生主体で国際会議の運営を行い、プレゼンテーション技術を向上させ、国際交流と国際理解を図ることを目的とするフォーラムである。今回は、中国地質大学の大学院（Graduate School, China University of Geosciences）の大学院生が運営主体となってフォーラムが実施され、Life、Environment、Resources 三つのセッションを振り分け、各会場で二日間にわたり行われた。フォーラム全体では、中国地質大学と中国科学院エコ環境研究センターによる2件のキーノートスピーチ、127件の口頭発表が行われた。

9月28日の夜に行われたフェアウェルパーティーでは、筑波大学の参加者が日本伝統の折り紙での折り鶴を披露して交流を深める効果を得られた。同時に行われた授賞式では、筑波大学から（一等賞5名、二等賞3名、三等賞5名）計13の賞を獲得し、筑波大学生の研究水準、英語でのプレゼンテーションスキルの高さを示す結果となった。

中国地質大学の心のこもった歓迎と運営、また美味しい中国料理のおかげで、参加された皆さんは終始にこやかであり、日中韓の学生同士、教員同士、スタッフ同士の交流も盛んに行われ、実りの多いフォーラムとなった。さらに、来年2015年の第8回日中韓大学院生フォーラムは、9月16日～19日に筑波大学（University of Tsukuba）での開催となることは、9月28日の日中韓参加者委員会で決定された。

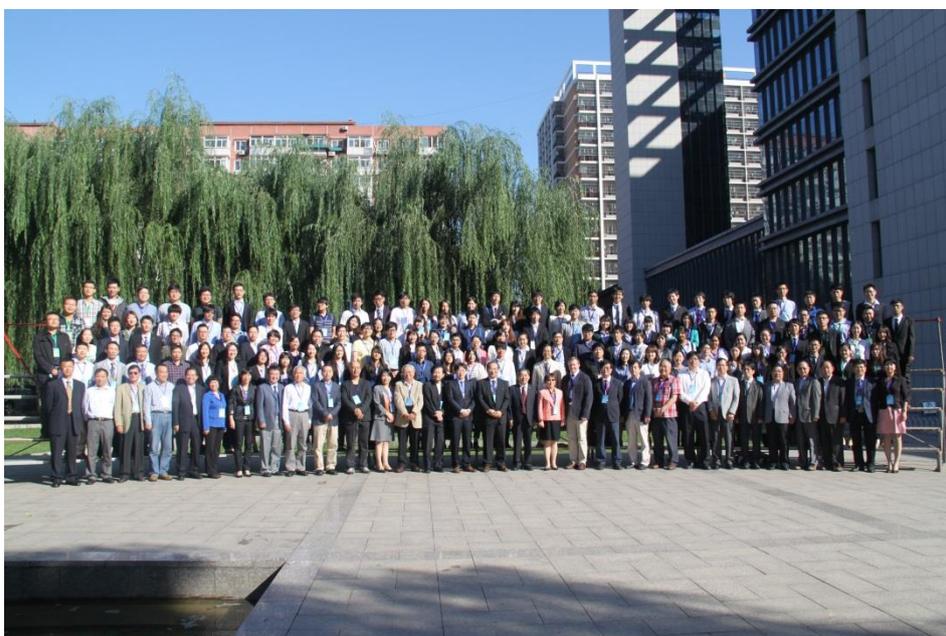
今回の日中韓大学院生フォーラム円満で実りのある大会となれたのは関係者の皆様のご協力ご支持のおかげである。白岩善博生命環境系長をはじめ、江面浩研究科長、丸山幸夫学群長、日中韓大学院生フォーラムに同行された教職員らの全面的なバックアップのもと、学生リーダグループはフォーラム参加ポスター作成から報告会まで協力し合い、見事なチームプレーで、本フォーラムの成功に大きく貢献した。また、事務方の生命環境支援室中国サポートチームのおかげで今回のフォーラムでも事務業務がスムーズに進められるとともに、フォーラム期間中、会場においても中国事務所北京オフィスのスタッフと共に、写

真撮影、交流案内をしてくれたことによって、貴重な場面の記録と交流促進に大きな役割を果たしてくれた。

最後、最も忘れてはいけないことは、フォーラム発表学生計三回の発表練習会にアドバイスしてくれた先生達の適切な指導と厳しい訓練のおかげで、学生達の英語プレゼンテーションスキルがあがり、良い結果に繋がったことである。

第7回日中韓大学院生フォーラム筑波大学実行委員会代表

記事：楊 英男（生命環境系准教授）



第7回日中韓大学院生フォーラム参加者の集合写真



学生リーダーグループ生命環境支援室の中国サポートチームの打ち合わせ



フォーラム発表学生の発表練習会



発表会場の発表と質疑応答の様子



フェアウェルパーティーで筑波大学の学生指導の下で参加者が折り鶴を折っている風景



発表学生と教職員の集合写真